



▲「みなさんの力を貸してください」と訴える山本さん(中央)

みんなの力で交通事故のないまちへ

## 秋の交通安全県民運動出発式

9月14日、市安全安心まちづくり推進協議会や田川交通安全協会、田川警察署が主催する「秋の交通安全県民運動出発式」が行われ、田中信浩田川警察署長や二場公人市長など関係者約60人が参加しました。この催しは、9月21日～30日で行われる「秋の交通安全県民運動」の一環として行われたもので、市民の交通安全の意識を高めるために毎年実施されています。この日は、平成23年に当時16歳の息子を飲酒運転事故で亡くした NPO 法人はあとスペース理事長の山本美也子さんも出席。山本さんは「飲酒運転をなくすため、諦めずに声を上げ続け、行動を起こしてください。飲酒運転撲滅の運動は命を守る運動です」と力強く語りました。

あいさつを充実させるには

## 中学校生徒会サミット

9月25日、田川市民会館で「中学校生徒会サミット」が開かれ、各中学校の生徒会役員30人と東鷹高等学校の生徒16人が参加しました。

平成27年度から始まった生徒会サミットは、今回で10回目。テーマは「あいさつの充実」で、前回(昨年2月開催)と同じテーマで議論を深める初の試みを取り入れました。前回は行われた東鷹高等学校の実践発表をもとに、各中学校の生徒会があいさつ運動を実践。これまでの取り組みの成果を報告し、意見を交換しながら高校生の助言を受けました。

鎮西中学校生徒会長の植山陽虎さん(3年生)は「あいさつの意義を校内に広めたい」と抱負を語りました。



▲電子黒板を使って取り組みを発表する生徒たち(田川中学校)

2020日本ICT教育アワード

## 文部科学大臣賞受賞記念フォーラム

9月23日、田川青少年文化ホールで「2020日本ICT教育アワード文部科学大臣賞受賞記念フォーラム」が開かれ、市民や教育関係者など約100人が参加しました。

この催しは、受賞の背景にある市の取り組みを市民に知らせることを目的に実施。ICT機器の整備と教員研修を連動させるなど、本市独自の「田川スタイル」の取り組みを紹介しました。また、シンポジウムでは市ICT教育アドバイザーの山本朋准教授(鹿児島大学)をコーディネーターに迎え、シンポジストとして福岡県・市立中学校・市PTA連合会の各代表3人が登壇。今後の「1人1台タブレット環境」に向けての期待や課題などについて意見を交わしました。



▲「国際交流に期待」「使い方のルールが必要」などの意見が出されました